

明治高等学校同窓会々報

発行
明治高等学校同窓会
〒101千代田区猿樂町2-4-1
明治大学付属明治高等学校
TEL (03) 296-4555
編集・広報委員会

おことわり
本会報の題字は、2号まで明治中学・高校同窓会々報と称していましたが、3号から明治高等学校同窓会々報と改題しました。

同期会の充実を

旧制・新制の一体化と新しい発展

同窓会々長 片岡龍夫



同窓会の皆様には、健康と各方面に活躍のことからお喜び申し上げます。

さて本年は昭和四十年卒業以来も鮮明にして、名称も「明治高等学校」の総称を以て、学校同窓会と一体化を図りました。第13回目の総会を迎えることに学校同窓会と一体化を図りました。第13回目の総会を迎えることに学校同窓会と一体化を図りました。

同窓会の運営上私共が常に頭を悩ましていたのは各年度の同期会に、同窓会からの代表が出席し、理事のなかで専務一人と常務数名を設けたこと、本年はこれを改正された規定と制度を生かして、代表幹事の再確認と、必要に応じて代表幹事諸君と理事との連絡を開き、ご意見も

最近の世相の混沌の背景の一つとして教育の責任が強く問われて来ている。たしかに戦後三十余年をふりかえりてみる時「哲学的基礎」の渾身の力をこめて「哲学的基礎」の渾身の力をこめて「哲学的基礎」の渾身の力をこめて

感 雑 相 世

—就任にあたって—

校長 清水義汎



私は三十年近く学者として自己の専門分野を専ら研究して来た。そして大半の教職員は教育に専ら心を注いで来た。そして大半の教職員は教育に専ら心を注いで来た。

最近の世相の混沌の背景の一つとして教育の責任が強く問われて来ている。たしかに戦後三十余年をふりかえりてみる時「哲学的基礎」の渾身の力をこめて「哲学的基礎」の渾身の力をこめて「哲学的基礎」の渾身の力をこめて

同窓会活動の

基盤を確立しよう

専務理事 三上外喜男

同窓会の改正会則は、戦前戦後ともに、今年こそ具体的な結果とを二貫する全同窓生の連帯の再確認と推進を実現したいものである。これを以て、専務理事として、理事のなかで専務一人と常務数名を設けたこと、本年はこれを改正された規定と制度を生かして、代表幹事の再確認と、必要に応じて代表幹事諸君と理事との連絡を開き、ご意見も

年会費の払い込みについて

会計より

一昨年度、総会において承認された「年会費徴集」について、現在、各卒業年次毎に代表幹事又は同期会世話役各位の御協力をお願いいたします。

母校短信

定年退職者

日生、昭和十五年早稲田大学文学部国文科卒、昭和二十一年明治高等学校、中学校教諭、四十七年高

新任教職員

高木善貞先生、大正七年二月七日生、昭和十二年千葉県師範学校卒、昭和二十三年東京美術学校書道科修了、昭和三十一年明治高等学校、中学校教諭。

大正十年第五回卒業
片岡龍夫
〒166 杉並区和田三十四六〇
電話(三三二)二二七〇

昭和七年卒業(十六回)
株式会社高砂保険事務所
小川武時
事務所 港区芝浦三三六二一〇
電話(四五五)七五三一

二二会(昭一三年卒)
東京製粉株式会社
望月信
専務 東京都江東区扇橋二一〇〇三
電話(六四四)六一一〇〇
自宅 船橋市金杉町一五二二七七

昭和十八年卒業
山崎春之
千代田区神田駿河台二丁目
電話(一九五)一三一一

昭和十八年卒業
藤本善太郎
千代田区神田神保町一ノ一九
電話(二九九)一四六一

昭和十八年卒業
石井文雄
練馬区東大泉町四一八一一
電話(九二二)四一八一

昭和八年卒・昭八会
大文産業株式会社
高木正夫
取締役 渋谷区富ヶ谷一五三三二
代々木ハイランドビル三〇二
電話(四六七)五四五一(代)

昭和十七年卒業
三立電機株式会社
三上外喜男
取締役 板橋区成増一三〇一三
電話(九三〇)一〇一(代)



総会会場風景

明治高校同窓会昭和53年度予算
(自)昭和53年4月1日(至)昭和54年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	954,050	総会経費	1,000,000
新規入会金	500,000	会報製作費	300,000
年度会費	575,000	通信費	800,000
総会会費	600,000	事務費	100,000
会報広告代	500,000	会議費	250,000
		公用費	100,000
		予備費	79,050
		基金積立	500,000
合計	3,129,050	合計	3,129,050

第十三回総会が、六月十一日明治高校講堂において行われ、会則の改正を中心に進められた。懇親会もなごやかな雰囲気の中で行われた。

第十三回総会は、昨年同様、の来賓をお迎えし、同窓会員多数の母校講堂において六月十一日午後三時より、恩師、学校関係者多数の出席を得て、盛大に開催された。

総会は、大竹宏氏(音優)の司会を進められ、会則の改正、事業及び決算の報告を行い、これを可決後、懇親会に入りました。会則の改正は、同窓会の目的とその達成のための事業内容を、より明確にし、その推進のための組織母

第十三回総会開かる 会則の改正を中心に

体の位置づけと運営の機能化を図るとなりました。懇親会は、なごやかな雰囲気の中で進められ、各テーブルには恩師の位置づけをし、あわせて基金運使を助成するの記念写真や談笑の姿がみられました。

明治会にて



明治高校同窓会昭和52年度会計報告

昭和53年3月31日現在

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	296,847	第13回総会経費	798,880
第13回総会会費	432,100	通信費	29,830
第13回広告代	440,000	印刷費	16,545
51年度分会費	40,000	会議費	36,293
52年度分会費	190,000	公用費	24,300
新規入会金	494,000	慶弔費	31,100
雑収	8,541	雑費	10,490
		次年度繰越金	954,050
合計	1,901,488	合計	1,901,488

左記の通り会計報告いたします
昭和五十三年三月三十一日

監査の結果相違ありません
監査 大西 新二

会長 片岡 龍夫
会計 小林 昭雄
同 大場 隆之

同窓生への手紙

明治会

前略、お元気ですか。卒業して、二十二年、早いものです。僕たちが明中へ入ったのは昭和二十六年、ちょうどサンフランシスコ講和条約が結ばれた年でした。戦争からようやく立ち直った、新しい日本の建設がこれから始まる、まさにそんな年だったわけですね。しかし僕たちはのんびりしたもので、受験競争も二、三層程度、五日制の土・日連休で、みんな思いきって羽根をのほすことのできた長き時代でした。卒業に備え、悪行に励む者、じつに個性がおおらかに開花して、活気ある学生時代でした。校門で下級生から補助金を調達したのは君じゃなかったかな。東高や近隣のワル高からも一目おかれていたため、陰ながら君たちの腕力と硬派ぶりが母校一般生徒を守るといふ思惟も生れたはずですね。

明中、明高の六年間、マンボウ、リーセントの流行った時代、なつかしさと、ちょっとした懐かしさ、魚佐旅館でほろ苦い、思いのつまった玉手箱……。

さて、この玉手箱をみんなしごいてあげてみると、去年の十一月、あちこちで笑い声があがった。集いを「明治会」と名付けて、機会あるごとにこうして集まろうじゃないかという話になったのだ。四、五十歳の年、こうかという僕たちの人生に、またひとつゆしみがあるわけだ。働き、子供を育て、彼らを飛び立たせてやる。苦勞はつきないかもしれない。しかし、これがおれたちのよきこどもである。そして、年に一度、「明治会」で少年の自分の姿に對面する。人生捨てたもんじゃないうぜなあきみ。お互いに頑張り、次の「明治会」がたのしみだ。(昭和32年本山崎敬生)

技術の日立

これからは
住まいにお掃除システムを
組み込む時代です。

一台で、家中のゴミを集中集塵する「さわやかクリーナー」

日立セントラルクリーナー



日立住宅設備株式会社 〒160 東京都新宿区信濃町34(信濃町駅前ビル) ☎(03)357-2311(代)

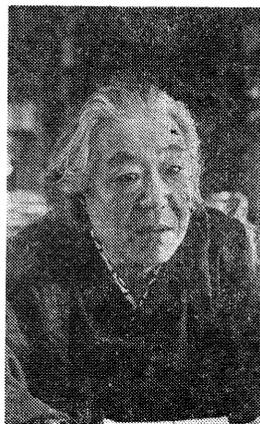
これからの住まいに365日のセントラル。
重いクリーナーの本体を部屋から部屋へ。そんな力仕事を365日続けている主婦って大変ですね。住まいにつきものお掃除を、もっと合理的にできないか。そこで生まれたのが、お掃除のセントラルシステムです。セントラルクリーナーは、掃除機本体を室外に設置し、要所要所に取りつけられたインレット(ホース差込み口)を配管で結んだ集中集塵システムです。これからの住まいを考えた便利な設備。ぜひご検討ください。



株式会社日立製作所

詰先生樹一郎山手

増田正一郎 22回卒



故山手樹一郎氏

第一回卒業生の山手樹一郎(本名 樹一郎)は、七ヶ屋法要名 井口長次、先生が二月八日に日大板橋院へ入院、三月十六日午後三時十二分、肺ガンで七十九歳の生涯を閉じられました。先生は中學生時代を振り返り、この新聞報道を以てご存じと思ひますが、改めて同窓会のみなさまにご報告申し上げます。

春なれど 病魔憎き 別れかな 編纂者お宅に伺つてから三十年、母校の先輩、小説の師、人生の父として、接してきた私は、もう先生はいないのだという心の整理がつかず、空洞感のなかで毎日を過し、如何に先生の存在が私の生きる支えであったかを痛く痛く噛みしめ、「君は仕事をすることだ」と、泉下から叱られて、机にかじりついているのみでありました。

五月三日の午後、世田谷区北島山の宗福寺に於て、秀典さまをはじめ近親の方々、小説勉強会の新しい

「まじめな学校の平凡な生徒」先生は中學生時代を振り返り、この新聞報道を以てご存じと思ひますが、改めて同窓会のみなさまにご報告申し上げます。

春なれど 病魔憎き 別れかな 編纂者お宅に伺つてから三十年、母校の先輩、小説の師、人生の父として、接してきた私は、もう先生はいないのだという心の整理がつかず、空洞感のなかで毎日を過し、如何に先生の存在が私の生きる支えであったかを痛く痛く噛みしめ、「君は仕事をすることだ」と、泉下から叱られて、机にかじりついているのみでありました。

五月三日の午後、世田谷区北島山の宗福寺に於て、秀典さまをはじめ近親の方々、小説勉強会の新しい

一七会より

昭和十七年卒 佐藤三郎

高阪・山田両先生の古稀を祝う
昭和五十二年七月九日
於 鐵道會館ロビーホール

進行役 大塚 五郎
第一部 祝 典
司会 宗内 堯
一、お祝いの言葉 卜部 芳郎
一、両先生の紹介 三上外喜男
一、記念品の贈呈 高橋 嘉吉
一、両先生の挨拶 高橋 嘉吉
一、來賓及び會員夫人紹介 吉丸 誠亮
一、校歌合唱 高原 克人
一、記念撮影
第一部 祝 宴

高阪 太郎先生 守夫 けたご重剛がいかにか意義あつたかを彼らしい表現で挨拶してくれました。次いで、三上君が我々の全く知らない両師のご誕生からの履歴を披露。われ等が校長高橋君が真摯に情願する言葉で記念品を贈呈。心なしか熱をこめて受けられる両先生、その情景まことに感動的であり、わが生涯最良の日。これに過ぎないと思ふ。高阪先生のお姿に昔の太郎ちゃんに似たトツツと謝辞を述べられる。高阪先生のお姿に昔の太郎ちゃんに似たトツツと謝辞を述べられる。高阪先生のお姿に昔の太郎ちゃんに似たトツツと謝辞を述べられる。

明中時代であったといえます。大学へ進んだ気持ちはあつても、家族の多い家の長男であるために、大正六年、明中を卒業すると、電器店に就職されたが、これは明らかに不向きであつたので、やがて、淡路町開眼に集まる詩・短歌の文学サークルで美しい神田娘と知り合い、長い交際の末に、大正十一年九月一日、関東大震災直後に夫婦になられたので、震災結婚ともいわれています。

五十年にして 夫婦とは 数年前の金婚式に、先生が作られた三行詩、ストリートに後白な表現に、多くの家族をかかえた夫婦が歩んできた幾層月、決してくれた妻への感謝、作家として今日に到るまでの万感の想いがこめられていると思ひます。

昭和二十一年一月、博文館が少年少女雑誌「海潮」を創刊する際、少年少女雑誌「少女号」(小学新報社)の編集手腕を認められて、博文館にスカウトされたのが、二十八歳の青年後期でした。

昭和五十二年年度決算報告及び昭和五十三年年度予算(案)

従来、会計年度は毎年六月の総会より翌年の六月までという変則的な形をとってまいりましたが、会則の改正にともない、今回より新しい会計年度(毎年四月一日より翌年三月三十一日まで)で進めることになりました。し、会計、年会費、寄付等は、同窓

から、会計年度は毎年六月の総会より翌年の六月までという変則的な形をとってまいりましたが、会則の改正にともない、今回より新しい会計年度(毎年四月一日より翌年三月三十一日まで)で進めることになりました。し、会計、年会費、寄付等は、同窓

そのころ、故土師清先生の紹つ二つに、先生の人格と日々生活から編み出された、野球なら変化するの妙味、時代小説にユーモア参加、同誌に発表された三篇作を小説の巧みに取り入れた発見が大華山と長英の二冊にまとめ、宛に添付けて、人の心に響く灯をともす、それが山手文学だと思ひます。

昨年の春、勲三等瑞宝章を賜つた折、「みんながよろこんでくれたよ、よかったね」と微笑された先生、戒名は山手樹一郎と私の心に生きていて、人の心に響く灯をともす作品が書けるかどうかの正念場に立たされ、私はペンを握り締めています。

二二二会の集い

二十二回卒 増田正一郎

昨年とは個々の交わりがあつたが、間(旧姓中村)、高坂、鈴木、矢野、竹内、高野、白井、望月、館、増田、以上十一名、御存じのように、私達の世代は戦争で多くの友を失つており、人数は少いが、会費は、中學生時代の顔に戻り、飲み、歌い、踊り、日ごろ実社会の苦勞を忘れ、同窓会に馴染書けるのは、いささか臆面もなくと思うが、多忙なから、わが子わが孫の語も出る。館野君の代弁者として、簡単に少年の頃を想ふ、年を忘れ、喜の日にこのことをつづつた。

五月十六日記

影を以て第一部を終了した。佐藤(守)君の司会、桑畑先生の不変の巨体、貫禄十分。級友とのディナーミュージックが流れはじめると急にくつろいだ気分となる。いずれも社長が重役か、恰笑と二段とトーンが上がる。はじめの寄席をほり上げて唱うのは酒の歌。ついに肩を組んで同期の桜をなげか散会した。

その高阪先生逝去され、次回昭和二十三年卒業 大西新商店

千代田区岩本町二丁目三十一番 電話(八六〇)六〇九七七八

- | | | | | | | | |
|---|--|--|---|--|--|--|--|
| 昭和三十一年卒
明治大学体育会体操部
監督 伊藤茂雄
市川市新井二丁目二十四番一五〇一
電話(〇四七三)七五七七〇 | 昭和三十一年卒
株式会社荻丸進
代表 渡辺興次郎
台東区浅草一丁目一四一四
電話(八四一)〇一四一〇 | 昭和三十一年卒
細川裝飾工業株式会社
代表 細川真一
千代田区神田 淡路町一丁目一九
電話(二五五)一六六三一一 | 昭和三十一年卒
田島寛二
代表 田島寛二
中央区八重洲二丁目一十三
電話(二七五)三九四一 | 昭和三十一年卒
小柳証券株式会社虎ノ門支店
支店長 高具鉄夫
港区虎ノ門一丁目二二番一
電話(五〇〇)五二二三一 | 昭和三十一年卒
株式会社町田商會
代表 町田清太郎
江東区亀戸一丁目三十一番八
電話(六八一)〇六二八・九三六四 | 昭和三十一年卒
目良昇鉄工株式会社
代表 目良昇
川口市本町三丁目一十五
電話(〇四八二)二二二二・二六二六 | 昭和二十三年卒業
大西新商店
代表 大西新
千代田区岩本町二丁目三十一番
電話(八六〇)六〇九七七八 |
|---|--|--|---|--|--|--|--|

明治中学高等学校の現況

高校教頭 中野 隆彰

一、中学、高校の現勢
わが明治中学高等学校のルーツ
は、ご承知の如く、明治四十五年
一月、明治中学校設立認可を受け
の授業を主とする知育は勿論であ
るが、徳育、体育のうち、毎日
神田駿河台明治大校構内に、木造
三階建て校舎を建築、初代校長
鶴沢明先生の下に同年四月に開
校を経て、現在、昭和五十二年
九クラス、生徒数五〇四名、高校
二、三年生計五〇名、特別課外
活動正課クラブと
コースの採り、明治大学各学部と
密接な連絡のもとに中学、高校、
大学と十年間わたる一貫教育を
推進しています。

本校は学校法人明治大学の唯一
の直系付属校として、普通科進学
コースの採り、明治大学各学部と
密接な連絡のもとに中学、高校、
大学と十年間わたる一貫教育を
推進しています。

二、教職員の内情
昭和五十二年十一月、十年余に
わたる永い間、学校長として校務
を総覧されてきた福島則雄先生
が病気で退任され、石を教え、全
教員指導の下にその成
果をあげつあります。

本校は学校法人明治大学の唯一
の直系付属校として、普通科進学
コースの採り、明治大学各学部と
密接な連絡のもとに中学、高校、
大学と十年間わたる一貫教育を
推進しています。

Table with 2 columns: Department (学部) and Student Count (人数). Rows include Law (法学), Commerce (商学), Economics (政経), Literature (文学), Engineering (工学), Agriculture (農学), Business Administration (経営), and Total (合計).

高校入試は、月十七、八日頃を目
標に実施するようになつておりま
す、本年度は中学校は二月一日、
高校は、月十九日でした。

明二会 (高校卒業)
(資) 三光堂書店
高橋 信雄
千代田区神田神保町一七
電話(二九二)二五五七

明二会 (高校二回卒業)
眼鏡の五割引
光学メガネ浅草店
刀根 一郎
台東区浅草橋一〇九一四
電話(八七四)〇五四〇

昭和二十七年卒業
東京黒子プラスチック工業所
黒子 昇
山手線田端駅近く
電話(八〇〇)三二二(代)

昭和二十七年卒業
板倉茶屋『要』
佐藤 要一
上野不忍の池畔仲町通り四角
電話(八三三)六二六五

明窓会 (昭和二十八年卒) 事務局長
(株)振天堂トケイ店
戸田 一郎
千代田区神田小川町三一〇
電話(二九二)四五五

第三期同期会・猿楽会
メガネの井戸吉
井戸 靖彦
千代田区神田神保町三十九
電話(二六二)四七〇五

第三期同期会・猿楽会
鈴木利夫
代表取締役
鈴木利夫
台東区東上野一三二五五
電話(八三四)三五七(代)

明高第三期同期会・猿楽会
株式会社 三共
小林 明
墨田区両国二一三三
電話(六三三)七五〇(代)

明高第三期同期会・猿楽会
明高硬式野球部監督
卯木 敏夫
荒川区西日暮里六一五一三
電話(八〇〇)六一〇〇

第三回同期会・猿楽会
(有) 明弘電業
戸室 安弘
墨田区石原二二二五五
電話(六三三)六七七二

明高第三期同期会・猿楽会
ゴルフショップクローサワ
黒沢 守
葛飾区東金町三三三三
電話(六〇〇)四三三

第三期同期会・猿楽会
(株)日東建設事業部
矢口 利男
江東区住吉二九九三三三
電話(六三三)七六六一三

第三期同期会・猿楽会
熊井製作所
熊井 実
千代田区神田錦町一八
電話(二九二)一八三

昭和二十七年卒業
吉岡木材株式会社
吉岡 輝明
千代田区外神田六十一六
電話(八三三)三二八四(代)

昭和二十七年卒業
大平舎美術印刷(株)
稲垣 公一
千代田区猿楽町一三三三
電話(二九二)四九三三(代)

昭和二十七年卒業
(株)雄松堂書店
新田 満夫
新宿区三栄町二十九
電話(三五七)一四一

昭和二十七年卒業
(株)千代田建設
大澤 義行
千代田区西神田三三三
電話(二六五)二〇六一(代)

昭和二十七年卒業
柿沼商店
柿沼 貞雄
千代田区神田神保町二二
電話(二六二)三三四八七

昭和二十七年卒業
(株)米山富次郎商店
米山 耕右
千代田区内神田二二二
電話(二五二)八二八(代)

昭和二十九年卒業
フジカラー現象所(株)富士商会
山浦 晟暉
杉並区和田一三三
電話(三八一)一一一

昭和二十九年卒業
矢嶋製本(株)
矢嶋 偉行
千代田区猿楽町一四一五
電話(二九二)四二八八(代)

昭和十七年卒業
日本製版(株)
卜部 芳郎
新宿区市ヶ谷河田町七フジテレビ内
電話(三五三)一一一(代)

昭和十七年卒業
明北建設株式会社
宗内 堯
港区青山二一四一五
電話(四〇三)九五六一(代)